

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【四半期会計期間】 第104期第3四半期
(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 大同メタル工業株式会社

【英訳名】 Daido Metal Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼最高経営責任者 判治 誠 吾

【本店の所在の場所】 愛知県名古屋市中区栄二丁目3番1号
名古屋広小路ビルディング13階

【電話番号】 052-205-1404

【事務連絡者氏名】 取締役常務兼上席執行役員
経営・財務企画ユニット長 佐々木 利 行

【最寄りの連絡場所】 愛知県名古屋市中区栄二丁目3番1号
名古屋広小路ビルディング13階

【電話番号】 052-205-1404

【事務連絡者氏名】 取締役常務兼上席執行役員
経営・財務企画ユニット長 佐々木 利 行

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(愛知県名古屋市中区栄三丁目8番20号)
大同メタル工業株式会社 東京支店
(東京都品川区東品川二丁目2番24号
天王洲セントラルタワー17階)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成24年2月14日に提出いたしました第104期第3四半期(自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)四半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

第4 経理の状況

注記事項

(セグメント情報等)

セグメント情報

3 【訂正箇所】

訂正箇所は__を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第2 【事業の状況】

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

(訂正前)

当第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年12月31日)における世界経済は、米国経済に一部回復の兆しが見られたものの、欧州債務危機による金融市場の混乱を背景としたユーロ圏経済の停滞や世界経済の牽引役であった中国経済の成長減速に加え、タイの洪水の影響等により全体的に不安定な状態が続きました。

国内経済は、東日本大震災による落ち込みから回復傾向にありましたが、海外景気の減速による外需の伸び悩み、歴史的な高水準な円高の長期化、タイの洪水の影響によるサプライチェーンの混乱等により、秋以降の回復は鈍化いたしました。

当社グループの主力事業である自動車産業分野は、海外では、中国の需要拡大ペースの鈍化や、タイでの大幅減産等がありましたが、グローバルベースでの堅調な需要により、世界の自動車販売台数及び生産台数は前年に比べ緩やかながらも増加いたしました。

国内では、自動車メーカー各社は東日本大震災の影響を挽回すべく本格的な増産体制に入り、国内生産は増加に転じましたが、タイの洪水の影響を受けて国内外共に一時的な減産を余儀なくされました。しかしながら、各社バラツキはあるものの挽回生産に向かいました。

建設機械業界では、金融引締め策の影響等により中国の需要が大きく鈍化しましたが、中国を除く海外市場は好調を持続しており、また日本国内も復興需要を受け、全体の出荷額は順調に推移いたしました。

造船業界は、日本・中国・韓国共に当面の手持ち工事量を確保していますが、欧州債務危機等による世界景気の減速懸念や船舶数の過剰感により、世界的に新造船の発注が減少するなど受注環境は厳しさを増しました。

一般産業分野は、東日本大震災後の復興需要を受けて堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同四半期に比べ8.6%増収の51,889百万円となりました。

また、営業利益については、「サバイバル・プラン」への取り組み成果により収益体質が改善されたことに加え、国内外の関係会社の増収効果等により前年同四半期に比べ19.6%増益の7,278百万円となりました。

経常利益は為替差損の縮小及び支払利息の減少等により前年同四半期に比べ32.5%増益の6,722百万円となり、それぞれ前年同四半期実績を上回る結果となりました。

四半期純利益は前年同四半期に比べ44.5%減益の3,881百万円と前年同四半期実績を下回りましたが、これは前年同四半期純利益に米国子会社清算結了に伴う法人税等調整額が計上されていたことによるものであります。

セグメントの業績は、次のとおりです。

なお、セグメント間の内部売上高又は振替高は、連結売上高に含めております。

自動車用エンジン軸受

海外では、特に欧州や韓国の海外メーカー向け販売が順調に推移いたしました。また国内も、各自動車メーカーの挽回生産等を受けて当期の後半は大きく生産が回復し受注は好調に推移いたしました。

この結果、売上高は前年同四半期に比べ11.6%増収の32,040百万円、営業利益は前年同四半期に比べ、9.2%増益の4,650百万円となりました。

自動車用エンジン以外軸受

自動車部品用軸受は、タイの洪水による部品メーカーの生産調整等の影響があったものの、売上高は前年同四半期に比べ0.5%増収の10,840百万円、営業利益は前年同四半期に比べ16.6%増益の3,152百万円となりました。

非自動車用軸受

建設機械用軸受は、グローバル需要と国内復興需要に支えられ順調に推移いたしました。

船用軸受は、日本・中国・韓国の造船メーカー共に新造船の受注環境は厳しさを増しておりますが、当面の手持ち工事量の確保により販売は堅調に推移いたしました。また、一般産業向けでは、ポンプ・潤滑装置関連が伸びるなど堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は前年同四半期に比べ10.0%増収の9,999百万円、営業利益は前年同四半期に比べ15.9%増益の2,857百万円となりました。

その他

不動産賃貸事業等により売上高は前年同四半期に比べ2.3%増収の237百万円、営業利益は前年同四半期に比べ0.3%増益の122百万円となりました。

(訂正後)

当第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年12月31日)における世界経済は、米国経済に一部回復の兆しが見られたものの、欧州債務危機による金融市場の混乱を背景としたユーロ圏経済の停滞や世界経済の牽引役であった中国経済の成長減速に加え、タイの洪水の影響等により全体的に不安定な状態が続きました。

国内経済は、東日本大震災による落ち込みから回復傾向にありましたが、海外景気の減速による外需の伸び悩み、歴史的な高水準な円高の長期化、タイの洪水の影響によるサプライチェーンの混乱等により、秋以降の回復は鈍化いたしました。

当社グループの主力事業である自動車産業分野は、海外では、中国の需要拡大ペースの鈍化や、タイでの大幅減産等がありましたが、グローバルベースでの堅調な需要により、世界の自動車販売台数及び生産台数は前年に比べ緩やかながらも増加いたしました。

国内では、自動車メーカー各社は東日本大震災の影響を挽回すべく本格的な増産体制に入り、国内生産は増加に転じましたが、タイの洪水の影響を受けて国内外共に一時的な減産を余儀なくされました。しかしながら、各社バラツキはあるものの挽回生産に向かいました。

建設機械業界では、金融引締め策の影響等により中国の需要が大きく鈍化しましたが、中国を除く海外市場は好調を持続しており、また日本国内も復興需要を受け、全体の出荷額は順調に推移いたしました。

造船業界は、日本・中国・韓国共に当面の手持ち工事量を確保していますが、欧州債務危機等による世界景気の減速懸念や船舶数の過剰感により、世界的に新造船の発注が減少するなど受注環境は厳しさを増しました。

一般産業分野は、東日本大震災後の復興需要を受けて堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同四半期に比べ8.6%増収の51,889百万円となりました。

また、営業利益については、「サバイバル・プラン」への取り組み成果により収益体質が改善されたことに加え、国内外の関係会社の増収効果等により前年同四半期に比べ19.6%増益の7,278百万円となりました。

経常利益は為替差損の縮小及び支払利息の減少等により前年同四半期に比べ32.5%増益の6,722百万円となり、それぞれ前年同四半期実績を上回る結果となりました。

四半期純利益は前年同四半期に比べ44.5%減益の3,881百万円と前年同四半期実績を下回りましたが、これは前年同四半期純利益に米国子会社清算結了に伴う法人税等調整額が計上されていたことによるものであります。

セグメントの業績は、次のとおりです。

なお、セグメント間の内部売上高又は振替高は、連結売上高に含めております。

自動車用エンジン軸受

海外では、特に欧州や韓国の海外メーカー向け販売が順調に推移いたしました。また国内も、各自動車メーカーの挽回生産等を受けて当期間の後半は大きく生産が回復し受注は好調に推移いたしました。

この結果、売上高は前年同四半期に比べ6.9%増収の30,699百万円、営業利益は前年同四半期に比べ8.6%増益の4,623百万円となりました。

自動車用エンジン以外軸受

自動車部品用軸受は、タイの洪水による部品メーカーの生産調整等の影響があったものの、売上高は前年同四半期に比べ10.5%増収の11,916百万円、営業利益は前年同四半期に比べ17.4%増益の3,173百万円となりました。

非自動車用軸受

建設機械用軸受は、グローバル需要と国内復興需要に支えられ順調に推移いたしました。

船用軸受は、日本・中国・韓国の造船メーカー共に新造船の受注環境は厳しさを増しておりますが、当面の手持ち工事量の確保により販売は堅調に推移いたしました。また、一般産業向けでは、ポンプ・潤滑装置関連が伸びるなど堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は前年同四半期に比べ12.9%増収の10,264百万円、営業利益は前年同四半期に比べ、16.1%増益の2,862百万円となりました。

その他

不動産賃貸事業等により売上高は前年同四半期に比べ2.3%増収の237百万円、営業利益は前年同四半期に比べ0.3%増益の122百万円となりました。

第4【経理の状況】

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(訂正前)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	自動車用 エンジン軸受	自動車用エン ジン以外軸受	非自動車用 軸受	計		
売上高						
外部顧客への売上高	31,666,868	10,291,714	9,755,116	51,713,699	175,418	51,889,117
セグメント間の内部売上 高又は振替高	373,477	548,516	244,169	1,166,164	62,181	1,228,346
計	32,040,346	10,840,231	9,999,286	52,879,863	237,600	53,117,463
セグメント利益	4,650,206	3,152,467	2,857,945	10,660,619	122,665	10,783,284

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

(訂正後)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	自動車用 エンジン軸受	自動車用エン ジン以外軸受	非自動車用 軸受	計		
売上高						
外部顧客への売上高	30,325,847	11,367,806	10,020,045	51,713,699	175,418	51,889,117
セグメント間の内部売上 高又は振替高	373,477	548,516	244,169	1,166,164	62,181	1,228,346
計	30,699,325	11,916,323	10,264,214	52,879,863	237,600	53,117,463
セグメント利益	4,623,954	3,173,827	2,862,837	10,660,619	122,665	10,783,284

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。